「３つの目的」

私は、20数年前に半年程中小企業家同友会に所属したが
経営状態の悪化で一度退会しており
平成24年（‘12年）に京都のお客様2社が熱心に活動されており
秋の大会に参加した時に、ゲストで来られた兵庫の方が
「支部長をする会社は経常20％を目指せ」
という檄を飛ばされたので
この言葉に賛同して、再入会したという経緯があった。

現実の支部活動を見ていると
やはり、社内の内部事情でグチを言い合っているような面もあり
支部例会の後の交流会で酒を飲む事が目的か
と疑うような方も見受けられるのだ。

そもそも、中小企業家同友会の理念は、
「三つの目的」と「自主・民主・連帯の精神」、
そして「国民・地域と共に歩む中小企業」
を3本柱とする考え方の団体なのだが、
最初にある「三つの目的」（よい会社・よい経営者・よい経営環境）
・会員同士が経験と知識を交流し、企業の自主的近代化と強い経営体質をめざす
・経営者が学び合い、総合的な経営能力を高め「よい経営者」になることをめざす
・他の中小企業団体とも連携し、制度や環境を改善して「よい経営環境」をつくる
が重要なのだ。

つまり、「よい会社」とは「自主的近代化と強い経営体質」であり
「よい経営者」は経営者が学び合い、総合的な経営能力を高めることであり
「よい経営環境」は制度や環境を改善する
ということなのだ。

私は、「自主的近代化と強い経営体質」が基本であり、
当社が「自主的近代化」の道筋を示して、それを実行して頂き
その結果、「強い経営体質」になって頂くという事が
重要と思っている。

それは、「よい会社」になる為に不断の経営努力を続けることであり

経営と現場が一体化して「改善・改革」にチャレンジし続けて
「変化」し続けることがポイントだと思っている。

つまり、故福井社長が「川の魚、池の魚」に喩えて
つねに時流に向かって変化して行くことを教えて頂き、
私はコンピュータの発展と共にシステムづくりと現場改善の両面で
仕事させて頂いたことに繋がると思っている。

しかし、社内事情で「左遷」人事があって、
「社長はクルマの道、私はシステムの道を歩みたい」
という主旨の辞表を出して、結果的に関連会社に転職したが
そこは「子会社」の悪い面を体現したような風土であり
親会社の情報処理料を基本にして、
IBM などからの受託開発を行なっていたが下請けに丸投げのような体質で
トータルで見れば万年赤字会社で親会社に大きな借金をしていた
という状況だった。

私は、営業担当になった時に、
オフコン5台、システム開発1億円の実績を挙げ
その勢いで日本 LCA の「DIPS」を導入と
自費で船井総研に学ぶという事を行なったが、
当初の担当役員は応援してくれたが、その後、東京に転勤して
船井流の資格を得た時に「栩野さんの客をつくるだけ」という声があり
見切って独立起業したのだった。

こうして「川の魚」になったが、資格だけでは経営コンサルタントは出来ず
自分の「得意」を見出せないで困っていた時に、
友人が「PL法セミナーを手伝わないか」と声をかけてくれて
そのフォロー活動から「あなたに頼みたいことがある」という電話がかかり
中堅の建設機械製造卸様だったが経営診断させて頂き
「情報」の伝達が末端まで半年以上かかるルート販売と分かり、
当時（‘96年）、企業なら100％普及しているFaxを活用する提案して
ようやく「一番商品」が見えて来たのだった。

確かに、末端にFaxするのでレスポンスが早く、
「商流」を地元販売店から卸そしてメーカーに「逆流」する「後工程引き」

が業界で混乱を起こさずに「改革」を進めることが出来た要因になり
お客様は僅か半年で年商16億円から20億円に飛躍したのだった。

つまり、「Fax」という手段で「自主的近代化」をスタートさせたのだった。

しかし、このお客様でも社内で「受容の先食い」という勢力がいて
「製品」情報の案内だけに萎んだ経緯があったのだ。

お客様の元専務様とは今も交流があるが
「栩野さんの言う通り改善・改革を進めておけば、今頃は随分変わっただろう」
とおっしゃって下さっているのも事実なのだ。

まぁ、「人」って不思議な存在で、
他の人たちがイキイキすると「やきもち」を焼き「反対勢力」化する
という永遠の課題を知ったのだ。

その意味で「中小企業家同友会」の理念
「三つの目的」と「自主・民主・連帯の精神」、「国民・地域と共に歩む中小企業」
という理想形を再度確認したいのだ。

一頭最初の「良い会社」で
「自主的近代化と強い経営体質」
を掲げていることを実践せずして、他の理念は成り立たない
と再確認したいと思っており、「三男」にも言っているところだ。